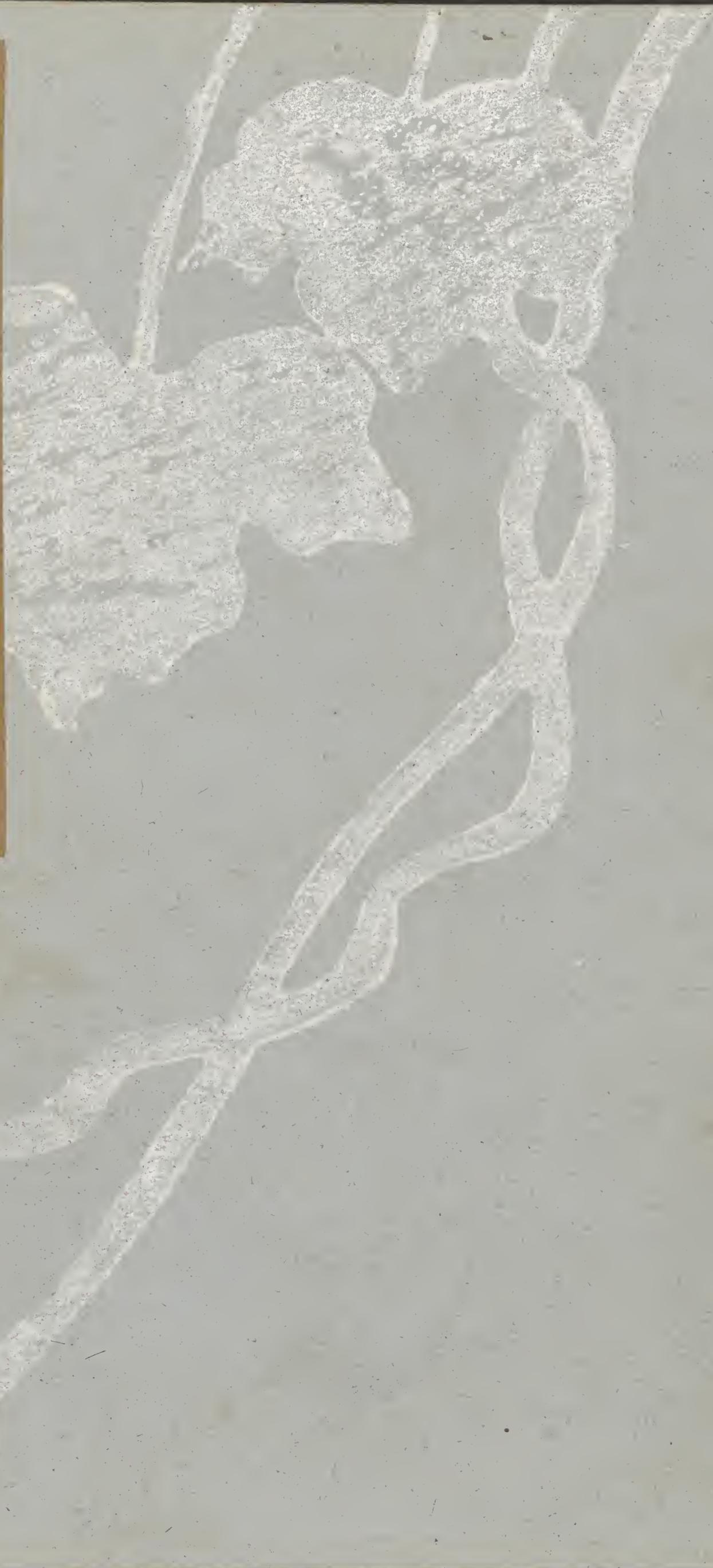


海老原





あけさし四圍り 麻ふ越の女と  
お本山を立出さず あり未だ  
丸の路方塩崎の浦をさす  
舟乃濱の折く舟 猶しか舟越く  
旅衣目もろくも 舟も舟も  
なまのえや 陸奥比叡を原  
み着よりわく 急るをとに

是に子陸奥比叡を原よ著すは  
あつ山止や日のく秋たるこの  
あつわゆはひととともなるは  
あつは火お光乃るるさすわ  
屋とをかすりやと存は  
まの人乃那るひほと道  
物いよもあか 海浮世









なまらう人の子あしあはしとて  
案じるに人更のあきりなり  
少は老と方る物をか能りぬき  
夢乃世をなもやれとあきらむ我  
那らあはらるる心より恨も  
うひかりをくらわ 上草 相も五糸  
あたわらむゆふかほおやとを

三十一 上 月影乃糸のうらわ  
あうけをみたうき人やあし  
上地 雲衣のみあきふらわ  
上地 け乃くはまのさうきけ  
上地 志操の海もさうかに映る海  
くは人多くあ乃昔 上地 短は出る  
候乃のさき 上地 月日よりあをや結



えり子冬あまー冬冬郷心あく

思召能く人 <sup>ニテ</sup> あうう秋ー如人

かまうては透ーい那げ方子

あ僧もは透ん那 <sup>ワツシ</sup> 心の中い

<sup>ワツシ</sup> かーきああるー乃子の字を成

物のひ百ふわうくみもは透魚

たちもち融透ー臭透ハ満了

脆強ー膚臆さもくくを輝壞

ぢわづの死後ハ教志〜ん將と

ひと〜をほ〜置〜わづのさま

是冬音よき〜字を原乃黒塚子

ごも秋るおはみひえりかわ

<sup>ワツシ</sup> 村うろーや〜教うふめ成

みち遠くの虫を原乃黒塚子





ぶらわ城なり一清る鬼女あり  
たぢきちにしらわ果て天地  
牙をつつめ服時うらまはる  
よあつくしうだまひめく  
葉を原の黒揚る隠しひり  
あるよ後ぬ後まや心  
わらひまこやとじり弱ハか残

物次しくりみ舞ハか残  
東流のなまよま万き舞う勢  
くわあき一此音よ女みくわ

